

工事等の入札・契約に関する意見書

平成 26 年 3 月 5 日

札幌市入札・契約等審議委員会

1 適切な競争の促進について

国における緊急経済対策等により、札幌市においても、今年度の公共工事の発注量が大幅に増加した。一方で、入札参加者の減少や入札不調の顕在化など、入札を取り巻く環境に変化が現れている。適切な競争環境を確保していくためには、これまでどおり、入札結果の分析をとおして常に傾向などを把握することが必要であり、現状に適した入札・契約制度の構築を図っていくことが重要と考える。

このような背景のなか、札幌市の入札における特徴の一つが、くじ引きによる落札者の決定が数多く見受けられることである。くじ引きは法令に基づく正当な手続であるものの、くじ引きが多発する状況が続けば、技術力を有する優良な企業が排除される懸念が生じる。

地域経済の発展のため、入札の競争性、公平性、透明性の確保に配慮しつつ、将来の優良な担い手として期待される企業が継続して経営できる環境を引き続き整備する必要があると考える。

以上を踏まえ、次のとおり提言する。

- (1) 技術力を有する優良な企業の受注機会を確保する入札方法の調査・研究を行うこと

2 公共工事における品質確保について

札幌市においては、品質確保を目的として、総合評価方式及び成績重視型の入札を実施している。これらを適用した工事は、しゅん功時の成績がおおむね良好であり、品質確保を実現する方策として十分期待できるものである。

社会基盤を整備する公共工事の調達にあたっては、価格だけではなく、品質も重視すべき要素であり、企業の適切な評価や受注機会の確保にも配慮しつつ、これらの方策をより一層推進していくことが望ましいと考える。

また、品質確保を前提として健全な調達を求めていくためには、技術の承継や優秀な人材の育成など、建設業の活性化が重要であり、次世代を担う若手技術者に活躍の場を設けることによって、建設業全体の発展に寄与することが見込まれる。

このような背景を踏まえ、札幌市では、若手技術者の活用などの観点による総合評価方式の運用や、直近で良好な成績を修めた企業を対象とした成績重視2年型を導入したところであり、引き続き検証が必要と考える。

以上を踏まえ、次のとおり提言する。

- (1) 品質確保を目的とした入札方式を継続実施し、その効果を検証すること